



# 日仏タンDEM学習における学生アドバイザーの導入 について

廣田, 大地

---

**(Citation)**

大學教育研究, 33:157-169

**(Issue Date)**

2025-03-31

**(Resource Type)**

departmental bulletin paper

**(Version)**

Version of Record

**(JaLCD0I)**

<https://doi.org/10.24546/0100495455>

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100495455>



## 日仏タンデム学習における学生アドバイザーの導入について

### Introduction of student advisors in Japan-France tandem learning

廣田 大地（神戸大学 大学教育推進機構 准教授）

#### 要旨

執筆者は、2021年から神戸大学におけるフランス語を学習する日本語母語話者と日本語を学習するフランス語母語話者の留学生を対象とし、日仏タンデム学習活動を運営している。2024年4月からは、タンデム経験者がフランス語を実践的に用いる機会の創出と、タンデム学習に初めて取り組む学生に対するサポートを目的として、学生アドバイザーという役割をあらたに設けた。本論では、2024年度前期に実施した日仏タンデム学習活動において、学生アドバイザーに従事した2名の学生ならびに日本語母語話者側のタンデム参加者10名を対象としたアンケート調査により検証をおこなった。その結果、学生アドバイザー自身がこの活動にやりがいを感じるとともに、さらなるフランス語学習へのモチベーションを高めていることが確認できた。また、サポートを受けたタンデム学習者の大半が、学生アドバイザーの同席が自分たちのタンデム学習にとって有益であったと回答しており、本制度の設立が双方にとって有意義なものになっていることが確認された。

#### 1. 本研究の目的

##### 1.1. 本研究に至るまでの経緯

執筆者は、2021年度より勤務校である神戸大学において、日本語母語話者でフランス語を学習している学生およびフランス語母語話者で日本語を学習している留学生を対象に、日仏タンデム学習の支援活動を行っている。「タンデム (tandem)」という語は、もともとラテン語で「縦に並んだ」という意味を持ち、近代英語やドイツ語では「二人乗り自転車」を指す言葉として定着している。しかし、今日では母語が異なる学習者同士がペアを組み、互いの言語学習を支援し合う学習形態を指す言葉としても広く用いられている。従来から、互いの母語を教え合う「言語交換」という学習形態は各国で行われてきたが、近年のタンデム学習は、「自律性 (autonomy)」と「互惠性 (reciprocity)」を特徴とする点で従来の言語交換とは異なるものである (Little & Brammerts, 1996)。

具体的には、神戸大学で実施されている日仏タンデム学習活動においては、日本語母語話者とフランス語母語話者が1対1のペアを組み、参加者同士で連絡を取り合いながら、毎週1回、1時間の対面学習を行っている。学習時間は、日本語とフランス語の学習に30分ずつ充てられるが、その際に重視されるのは、母語話者が一方的に自分の母語を教えるのではなく、学習者自身が何を学びたいかを相手に伝えることである。母語話者は学習者

のニーズに応じたサポート役に徹するという点が、従来の言語交換とは異なるタンデム学習の重要な特徴である。

日本の大学におけるタンデム学習に関する先行研究としては、脇坂 (2012; 2013) や小林 (2016) による研究が挙げられる。これらの先行研究や実践例を参考にしながら、執筆者は 2021 年度後期から 2023 年度末までの 2 年半の間、前期・後期ごとに平均 10 組のタンデム学習ペアを組織し、ペアごとに自主的な日仏タンデム学習を推奨してきた。そのようにしてタンデム学習活動を実践していく中で、以下に示すような課題が浮かび上がってきている。

まず、特に初めてタンデム学習を経験する学生に顕著な傾向であるが、母国語の異なる初対面の二人で円滑にコミュニケーションを取ることが難しい場合があるという問題が挙げられる。また、日仏タンデム学習では原則として同性同士でペアを組むが、集まった参加希望メンバーの男女の比率によっては、異性同士でペアを組むこともあり、その際、初対面の異性と 1 対 1 で会話をすることに不安を感じる者もいる。このため、初回のタンデム学習の際には、タンデム学習の経験が豊富な別の学生が同席し、ペアの双方をサポートすることが望ましいと考えられた。また、このように第三者が関わるようにしておくことで、ペアの間で何らかの問題が発生した場合に、第三者に気軽に相談できる環境を整えることが可能となると考えられた。

もう一点の課題として、これまでの 2 年半にわたり日仏タンデム学習の支援活動を行ってきた中で、フランス語の運用能力やタンデム学習に必要なコミュニケーション能力を向上させてきたタンデム学習経験者に対して、彼らの経験をさらに活かせる新たな活躍の場を提供したいという考えがあった。これにより、彼らがこれまで培った能力を一層向上させ、学習成果を持続的に活用できる機会を創出することを目指している。

最後に、コーディネーターである執筆者が担う業務量の増加が問題として挙げられる。日仏タンデム学習を希望する神戸大学の正規学生・留学生はともに多く、活動の規模をさらに拡大することも可能であると考えられるが、執筆者自身が大学での他の業務を抱えているため、これ以上の時間をタンデム学習の運営に割くことが困難であった。日仏タンデム学習活動をさらに拡大するためには、サポートスタッフの導入が必要となっていた。

## 1.2. 学生アドバイザーの役割

以上の 3 点の課題を同時に解決するために考案したのが、日仏タンデム学習における「学生アドバイザー」制度の導入である。これまでの 2 年半にわたる神戸大学での日仏タンデム学習活動において、フランス語の運用能力を向上させ、積極的に参加してきた学生が数名存在している。そのため、2024 年度前期に、その中の 2 名を学生補佐員として雇用し、その役割を「学生アドバイザー」と位置付けた。本論では、彼女たちを A さん・B さんと呼ぶが、いずれも文系の女子学生で、A さんは学部 4 年生、B さんは博士前期課程 1 年

生である。二人とも3年以上のフランス語学習歴を有し、日仏タンデム学習にも複数期間参加している。

学生アドバイザーは二人で担当を分担し、これからタンデム学習を開始するペアとメールで連絡を取り合い、初回のタンデム学習の日時および場所を調整する。また、初回の1時間の学習にも同席し、ペアに対して学習の進め方を説明する。具体的には、30分ずつ日本語とフランス語に時間を分けて学習を行うこと、学習者が主体的に学習を進めることを伝える。また、会話が途切れがちな場合には、会話を円滑に進めるための表現を日本語・フランス語の両方でレクチャーする。加えて、初対面の二人の緊張をほぐし、リラックスした雰囲気を作り出すことも、学生アドバイザーの重要な役割の一つである。

### 1.3. 2024年度前期の日仏タンデム学習状況

2024年度前期には、Aさん・Bさんの学生アドバイザーとしての協力のもと、12組の日仏タンデムペアを組むことができた。この12名の中にはAさんとBさん自身も含まれているため、彼女たち以外には10名の日本語母語話者の学生が日仏タンデム学習に参加したことになる。ただし、10名のうち1名は、すでに知り合いであったフランス人留学生とタンデム学習を開始したため、初回セッションに学生アドバイザーは同席していない。また、10名のうち2名はAさん・Bさんのどちらともスケジュールが合わなかったため、執筆者自身が初回のタンデム学習に数分間だけ立ち会うことになった。そのため、実際には7名の日本語母語話者の学生のタンデム学習に、AさんかBさんのどちらかが同席したことになる。

このようにして、学生アドバイザーの協力を得ながら日仏タンデム学習活動を進めることは、コーディネーターである執筆者にとって業務量の軽減につながったと感じている。また、学生アドバイザーの2人やタンデム学習者たちの様子からも、学生アドバイザーの存在がタンデム学習の円滑な実施に寄与していることが窺えた。しかし、具体的にどの点で、どの程度、学生アドバイザーの存在がタンデム学習に貢献しているのかを明確にする必要があるだろう。

## 2. 研究の方法

そこで、本研究では、日仏タンデム学習における学生アドバイザーと、学生アドバイザーからサポートを受けたタンデム学習者の双方を対象としたアンケート調査を行い、その結果を量的・質的に分析することで学生アドバイザーの導入にどの程度の意義があるのかを検討する。アンケートの実施時期は、2名の学生アドバイザーが2024年度前期におけるすべての業務を終わらせた2024年7月17日以降とする。本来であれば、タンデム学習者に対するアンケートは、日本語母語話者だけでなく、フランス語母語話者側に対しても実施すべきであったが、準備のために十分な時間を確保できなかったため残念ながら今回は

その実施を見送った。

## 2.1. 学生アドバイザーへのアンケート項目について

まず、学生アドバイザーに対するアンケート項目は、次の表1に示すとおりである。回答者は各項目について、自己評価として「1：全く当てはまらない、2：あまり当てはまらない、3：どちらともいえない、4：やや当てはまる、5：とても当てはまる」の5段階で回答する。ただし、最後のQ1-6については、自由記述式での回答を求めている。

表1 学生アドバイザーへのアンケート項目

Q1-1 今まで勉強したことを役立てることができた。
Q1-2 他のフランス語学習者と知り合えることは自分にとって有益だった。
Q1-3 フランス語母語話者と知り合えることは自分にとって有益だった。
Q1-4 勤務内容は、自分自身のフランス語学習においても役立った。
Q1-5 勤務内容は、自分自身のフランス語学習に対するモチベーション向上につながった。
Q1-6 アドバイザー勤務について、感じたことや気づいたことがあれば自由に記述してください。

以上のような質問項目を設定した理由は、まずQ1-1において、学生アドバイザーの導入目的のひとつとして、タンデム学習経験者がその経験や培ったフランス語能力を活かす機会を提供することが挙げられるため、その目的が達成されているかどうかを確認するためである。

Q1-2とQ1-3は、日仏タンデム学習において、ペアの二人とコミュニケーションを取ることを学生アドバイザーが有益と感じているかを確認する意図がある。

Q1-4とQ1-5は、学生アドバイザーの活動が、本人のフランス語学習に対してどの程度貢献しているかを確認するものである。

さらに、自由記述式のQ1-6を設けることで、上記の設問に関連した具体的な感想やエピソードを収集し、定量的なデータに加えて、質的な情報も得ることを想定している。

## 2.2. タンデム学習者へのアンケート項目について

続いて、学生アドバイザーのサポートを受けるタンデム学習者に対するアンケート項目は、次の表2のとおりである。先ほどのアンケート項目と同様に、回答者は各項目の内容が自分自身に当てはまるかどうかを、「1：全く当てはまらない、2：あまり当てはまらない、3：どちらともいえない、4：やや当てはまる、5：とても当てはまる」の5段階評価で回答する。ただし、Q2-3のみは5段階評価ではなく、実際にパートナーとタンデム学習を行った回数を数字で答えてもらうことになる。

表2 タンデム学習者へのアンケート項目

Q2-1 今期の日仏タンデム学習は自分のフランス語学習に役立った。
Q2-2 今期の日仏タンデム学習はフランス語学習のモチベーション向上につながった。
Q2-3 今回のパートナーとタンデム学習は合計何回できましたか。
Q2-4 アドバイザーはタンデムの具体的な進め方を教えてくれた。
Q2-5 初対面の人と会話をするのは緊張するが、アドバイザーが同席していたことで緊張がほぐれた。
Q2-6 アドバイザーは話しやすい雰囲気作りをしてくれた。
Q2-7 アドバイザーは会話が止まった時に助けてくれた。
Q2-8 アドバイザーからフランス語の学習方法についてアドバイスもらった。
Q2-9 今後も初めてタンデム学習をする人のために初回のタンデムにアドバイザーが同席する制度を継続した方がいいと思う。

Q2-1 と Q2-2 は学生アドバイザーに関してではなく、日仏タンデム学習そのものが回答者自身にとって有益であったかどうかを確認するものである。

また、Q2-3 は、学生アドバイザーが同席した初回セッションの後、自分たちだけでどの程度タンデム学習を継続できたかを確認するために設けている。ただし、今回はタンデム学習のペア確定作業が遅れてしまい、タンデム学習を開始できたのが6月上旬から7月上旬にかけてであるため、タンデム学習の回数が少ないことは必ずしも自主的なタンデム学習が継続できなかったことを意味するわけではない。

Q2-4 から Q2-8 にかけては学生アドバイザーのサポート内容に関するものであるが、まず Q2-4 では、日本語とフランス語で30分ずつ区切って学習する等のタンデム学習の基本的なルールを学生アドバイザーが丁寧に教えられているかどうかを確認している。Q2-5、Q2-6、Q2-6 にかけては、「緊張をほぐす」「話しやすい雰囲気を作る」「会話が止まった時に助ける」というような、会話しやすい雰囲気作りやサポートに関して、少しずつ表現や角度を変えて確認している。

最後に Q2-9 において、総合的に評価して学生アドバイザーの存在がタンデム学習に有益であるかどうかを尋ねている。

それ以外にも、Q2-3 の後で「今期の日仏タンデム学習を実施する中で何か困ったことはありましたか？何かあった場合、こちらに記入してください。」、Q2-10 の後で「その他、タンデムやアドバイザーに関するご意見・改善点などがあれば、こちらに記入してください。」という自由記述欄を2カ所設け、それぞれ回答に関連した個別の事情についても記述できるようにしてある。

### 3. アンケート結果と分析

#### 3.1. 学生アドバイザーのアンケート結果と分析

2名の学生アドバイザーによるアンケートの回答は、次の表3のとおりである。

表3 学生アドバイザーによるアンケートの回答結果

	Aさん	Bさん
学部	文系学部	文系学部
学年	学部4年生	修士1年生
フランス語学習歴	3年半	5年目
Q1-1 今まで勉強したことを役立てることができた。	4：やや当てはまる	4：やや当てはまる
Q1-2 他のフランス語学習者と知り合えることは自分にとって有益だった。	4：やや当てはまる	4：やや当てはまる
Q1-3 フランス語母語話者と知り合えることは自分にとって有益だった。	5：とても当てはまる	5：とても当てはまる
Q1-4 勤務内容は自分自身のフランス語学習においても役立った。	5：とても当てはまる	4：やや当てはまる
Q1-5 勤務内容は、自分自身のフランス語学習に対するモチベーション向上につながった。	5：とても当てはまる	5：とても当てはまる

二人ともすべての項目に対して肯定的な回答をしているが、どちらもQ1-3とQ1-5についてとりわけ肯定的な回答となっている。つまり、Aさん・Bさんの双方にとって、タンドム学習の学生アドバイザーを務めたことは、自分自身のタンドム学習のペア以外のフランス語母語話者とも知り合いになり、会話する機会を得て、それがフランス語学習に対するモチベーション向上につながったということが伺える。

続いて、自由記述欄の回答内容についても、まずはAさんから確認しておきたい。表4にあげたように、Aさんは「仕事の感想」と「大変なところ・改善点」の2点に分けて記述している。後者は今後の執筆者による日仏タンドム学習活動の改善にとって非常に有益な示唆に富んだものになっているが、今回の研究目的からは外れるため、前者の「仕事の感想」のみを分析の対象とする。Aさんの感想からは、5段階評価の結果と同様に、学生アドバイザーを務めることで「フランス人の知り合いが増える」ことや「フランス語学習のモチベーション向上」という効果があることが肯定的に捉えられている。また、それ以外にも、5段階評価では「Q1-1 今まで勉強したことを役立てることができた」の回答は「やや当てはまる」ではあるものの、「タンドムの楽しさと有効性を強く感じてきたからこそ、より多くの人にタンドムを広められることがとても嬉しい」と自身の経験を役立てられて

いることの喜びが率直に表現されているだろう。

表4 Aさんによる自由記述欄(Q1-6)の回答

<p>【タンデム・アドバイザーの仕事の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フランス語がただただ好きなので、フランス語に関われる時間が増えて楽しい、嬉しい</li> <li>・フランス人の知り合いが増える</li> <li>・2年生からタンデムをしてきた、タンデムの楽しさと有効性を強く感じてきたからこそ、より多くの人にタンデムを広められることがとても嬉しい。</li> <li>・「タンデム・アドバイザーの仕事につくからにはフランス語力を高めたい」と思い、フランス語学習のモチベーション向上にもつながった。</li> </ul> <p>【タンデム・アドバイザーの大変な所・改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの方々とアドバイザーの3人の予定を合わせるのが難しかった</li> <li>・前期は参加者24人で12組のペアを作ったが、もっと参加者が多ければ初回タンデムの実施までにもっと時間がかかってしまうかもしれない。</li> <li>・フランス人がタンデムについての情報を得られにくい状況だった。また、タンデム・アドバイザーの仕事の開始も遅くタンデム実施のシステムを作るのに時間がかかってしまった。そのため前期はタンデムの開始が遅くなってしまったペアが多かった。後期からは、フランス人が留学してからすぐに簡単にタンデムについて知ることができるようにする必要があると感じた。</li> <li>・次のタンデム・アドバイザーの雇用と引き継ぎ</li> </ul>
---

次に、Bさんによる自由記述欄の回答を確認しておくと、表5のように、BさんもまたAさんと同様に、5段階評価の結果を裏付けるように、「フランス語母語話者と多く知り合い、モチベーションの向上につながった」と述べている。また、Aさん同様に、「Q1-1今まで勉強したことを役立てることができた。」の回答は「やや当てはまる」であったものの、「これまでのタンデムの学習成果を発揮できてよかった」と述べている。

表5 Bさんによる自由記述欄(Q1-6)の回答

<p>タンデム自体は約2年前から参加しており、そのおかげで留学先(※注・英語圏の国)でもフランス語を使って交友関係を広げることができた。帰国後は日本でフランス語を話す身近な人がおらず、しばらくフランス語のスピーキングから遠ざかっていた。アドバイザーの勤務を始めたことにより、フランス語母語話者と多く知り合い、モチベーションの向上につながった。アドバイザーの勤務では日本語とフランス語両方を使って説明したり、会話の補助をしたりするなど、会話の実践をする機会もあった。フランス語で説明をした際は、フランス人参加者の緊張もよりほぐれていたように思う。これまでのタンデムの学習成果を発揮できてよかった。アドバイザー勤務を通して知り合った人の中には、大学で会うとフランス語で日常会話ができ</p>
---

る仲になったフランス人もいる。

また、初めてタンデムに参加をする日本人学生にとって、アドバイザーの同席はより有効であると感じた。まだフランス語のレベルが高くなく、初めて同年代のフランス語話者と接する日本人学生は、かなり緊張している様子だった。困った時に日本語で補助や説明を加えられる人がそばにいて、ある程度の不安は解消されたのではないかと思う。

アドバイザーが同席した後に、参加者のタンデムがどのように継続されているのかという点が、個人的には気になっている。参加者によるフィードバックを読むのが楽しみ。

以上の A さん・B さんによるアンケート結果の分析からも、学生アドバイザーの導入は、アドバイザー本人たちにとって非常に有意義なものになっていると評価できるだろう。

### 3.2. タンデム学習者のアンケート結果と分析

続いて、タンデム学習者側が学生アドバイザーのサポートをどのように捉えていたのかを確認していきたい。2024 年度前期に組織した 12 組の日仏タンデム学習ペアの内、2 組は学生アドバイザー自身とフランス語母語話者によるペアであるため、本アンケートの対象外としている。よって、学生アドバイザー 2 名を除くと、日仏タンデム学習に参加した日本語母語話者学生は 10 名になるが、その内 9 名から次の表 6 のような回答を得た。

表 6 タンデム学習者によるアンケートの回答結果

仮名	C	D	E	F	G	H	I	J	K
学部	文系	文系							
学年	B3	B3	B2	B2	B2	B3	B3	M1	B2
学習歴	2年	1年	1年	1年	1年	3年	2年	5年	1年
Q2-1	5	4	5	4	4	4	5	5	4
Q2-2	5	5	5	4	5	4	4	5	4
Q2-3	7回	7回	5回	3回	6回	3回	4回	10回	1回
Q2-4	3	3	5	5	3	4	5	5	1
Q2-5	3	1	5	5	3	4	4	5	1
Q2-6	3	4	5	5	3	5	5	5	1
Q2-7	3	4	5	5	3	4	5	3	1
Q2-8	3	2	5	4	3	1	4	3	1
Q2-9	3	4	5	5	3	5	5	5	1

※ 1～5の数字は「1：全く当てはまらない、2：あまり当てはまらない、3：どちらともいえない、4：やや当てはまる、5：とても当てはまる」の5段階評価を表している。

上記の表6の中で、Cさん・Gさん・Kさんの背景色が灰色になっているのは、この3名が、日程の都合で学生アドバイザーのサポートを受けることができなかった参加者であることを示している。この3名に関しては、サポートを受けた学生との比較という観点から分析の対象としたい。

続いて、次の表7・8では、自由記述欄に回答があったものだけをまとめてある。

表7 自由記述欄「今期の日仏タンデム学習を実施する中で何か困ったことはありましたか？何かあった場合、こちらに記入してください。」の回答

Gさん	タイマーで仕切ると改まってしまい、何を話していいか分からなくなった。だから次の回で自由に会話し、だいたい30分で交代するようになると、その後から区切らずやることになり、お互いが楽な英語で話し続けてしまった。
-----	---

表8 自由記述欄「その他、タンデムやアドバイザーに関するご意見・改善点などがあれば、こちらに記入してください。」の回答

Cさん	開始前から知り合いだったので、アドバイザーの方にはついてもらってないです。
Dさん	初回はアドバイザーの方が来られなかったので、2回目に同席してもらった。 アドバイザーの方は優しい方でしたが、ちょっと試験監督っぽい感じがして緊張感が若干あった。 でも初回到ICカフェでパートナーを見つけるのは、難しいので2人を合わせる役割として、初めてタンデムする方にはアドバイザーがいたほうが良いと思う。
Gさん	時間が合わず、アドバイザーと会えなかったのが残念でした。
Kさん	アドバイザーが同席できなかったため、わかりません。

### 3.2.1. タンデム学習についての回答の分析

まず、タンデム学習そのものについての質問項目（Q2-1「今期の日仏タンデム学習は自分のフランス語学習に役立った」、Q2-2「今期の日仏タンデム学習はフランス語学習のモチベーション向上につながった」、Q2-3「今回のパートナーとタンデム学習は合計何回できましたか」）に対する回答について見ておこう。

全体として、タンデム学習者たちは皆、程度の差はありつつも、タンデム学習活動が自分のフランス語学習に役立ち（Q2-1）、またモチベーションの向上にもつながった（Q2-2）と評価している。また、このQ2-1とQ2-2の結果とQ2-3の学習回数との間に関連性があるように思われたため、それぞれの値の間での相関関係について、EXCELソフトによりPEARSON関数とT.DIST.2T関数を用いて、r値とそのp値を算出したところ、次の表8のような結果を得ることができた。

表 8 Q2-1, Q2-2, Q2-3の結果の間の相関

	r 値	p 値
Q2-1 と Q2-2	0.35	0.35582
Q2-1 と Q2-3	0.485643	0.185059
Q2-2 と Q2-3	0.825593	0.006123

データの数が少ないために、統計処理が有効であるとは言えないが、Q2-1, Q2-2, Q2-3の間には相関関係があり、特に Q2-3 のタンデム学習の回数に関する回答と、Q2-2 のモチベーション向上に関する回答には明確な関連性がある。タンデム学習の回数が 4 回までの学習者は皆、モチベーション向上につながったが「やや当てはまる」であったのに対して、5 回以上実施できた学習者は皆、「とても当てはまる」と回答している。このことから、日仏タンデム学習は、フランス語能力の向上に直接つながっているというよりも、フランス語学習のモチベーション向上に貢献していると考えられるだろう。また、モチベーション向上のためには、一定の回数タンデム学習を繰り返すことも重要であると考えられる。

### 3.2.2. 学生アドバイザーについての回答の分析

ここでは、Q2-4 から Q2-9 にかけての学生アドバイザーに関する質問項目に対する回答を検討する。前述のとおり、回答者 9 名のうち 3 名は学生アドバイザーのサポートを受けていないため、残る 6 名の回答を分析対象とする。

まず、Q2-4「アドバイザーはタンデムの具体的な進め方を教えてくれた。」の結果について見ると、回答者の内訳は、「5：とても当てはまる」が 4 名、「4：やや当てはまる」が 1 名、「3：どちらともいえない」が 1 名であった。この結果から、平均スコアは 4.5 ポイントとなり、アドバイザーが自身の役割を正しく理解し、タンデム学習ペアに対してその進行方法について十分な説明を行っていたと評価できる。なお、「3：どちらともいえない」と回答した 1 名については、事前に執筆者自身がタンデム学習の注意点を説明していた影響で、他の回答者とは異なる認識を持っていた可能性が考えられる。この点は今後の調査設計において留意すべき課題である。

続いて、Q2-5「初対面の人と会話するのは緊張するが、アドバイザーが同席していたことで緊張がほぐれた。」の結果を検討する。この質問に対し、3 名が「5：とても当てはまる」、2 名が「4：やや当てはまる」、1 名が「1：全く当てはまらない」と回答し、全体の平均スコアは 4.0 ポイントとなった。「1：全く当てはまらない」と回答した 1 名の自由記述欄には、「初回はアドバイザーの方が来られなかったので、2 回目に同席してもらった。アドバイザーの方は優しい方でしたが、ちょっと試験監督っぽい感じがして緊張感が若干あった」との記述が見られた。このことから、この回答者が低い評価をした理由として、初回セッションにアドバイザーが不在であったことが挙げられる。さらに、初回セッ

ションを自分たちのみで乗り越えた経験があったため、2回目にアドバイザーが同席することで自分たちのリズムが崩れた可能性が考えられる。この1名を除外した場合、初回セッションでアドバイザーが同席していた5名の平均スコアは4.6となり、アドバイザーの同席が緊張の緩和に寄与していると評価できる。

次に、Q2-6「アドバイザーは話しやすい雰囲気作りをしてくれた。」の結果を分析する。この質問では、5名が「5：とても当てはまる」、1名が「4：やや当てはまる」と回答し、平均スコアは4.83と非常に高い評価が得られた。初対面同士のタンデムペアにおける不安の軽減を目的の一つとするアドバイザー制度において、この結果はアドバイザーがその役割を十分に果たしたことを示していると言えるだろう。

Q2-7「アドバイザーは会話が止まった時に助けてくれた。」についての結果を見てみると、3名が「5：とても当てはまる」、2名が「4：やや当てはまる」、1名が「3：どちらともいえない」と回答し、平均スコアは4.33ポイントとなった。「3：どちらともいえない」と回答した1名はフランス語学習歴が5年と最も長く、フランス語での会話を途切れることなく続ける能力を備えていると考えられる。そのため、この参加者にはアドバイザーによる会話サポートが必要な場面が少なかった可能性がある。この1名を除いた場合、他の5名の平均スコアは4.6となり、アドバイザーによる会話サポートが高い評価を得ていることが示される。

次に、Q2-8「アドバイザーからフランス語の学習方法についてアドバイスをもらった。」の結果を検討する。この質問に対して、1名が「5：とても当てはまる」、2名が「4：やや当てはまる」、1名が「3：どちらともいえない」、1名が「2：あまり当てはまらない」、1名が「1：全く当てはまらない」と回答しており、すべての設問の中でもっとも回答のばらつきが大きい項目であった。平均スコアは3.16ポイントと低めである。もともとアドバイザーにはタンデムの進行と会話サポートを主な役割として依頼しており、学習方法に関するアドバイスは必要に応じて行って欲しいという程度の指示しかなかった。そのため、参加者のフランス語学習歴や運用能力に応じてアドバイザーの対応が異なり、このばらつきにつながったと考えられる。

最後に、Q2-9「今後も初めてタンデム学習をする人のために初回のタンデムにアドバイザーが同席する制度を継続した方がいいと思う」の結果を見ると、5名が「5：とても当てはまる」と回答し、残りの1名は「4：やや当てはまる」と回答した。平均スコアは4.83ポイントと非常に高く、アドバイザーの同席制度が参加者に肯定的に受け止められていることがわかる。「4：やや当てはまる」と回答した参加者は、自由記述欄で「初回はアドバイザーが同席しなかった」と記しており、初回にアドバイザーのサポートを受けられなかったことが評価を下げた理由と推測される。しかし、この参加者は「初回到〇〇（※タンデム学習の実施場所として指定したオープンスペース）でパートナーを見つけるのは、難しいので二人を会わせる役割として、初めてタンデムする方にはアドバイザーがいたほうが

良い」という意見も述べており、アドバイザー制度自体には肯定的な見解を示している。

これらの結果から、学生アドバイザーの同席は参加者の緊張の緩和や会話のサポートに有効であり、全体的に高い評価を得ていることが確認できる。一部の低評価は、アドバイザーの同席の有無や参加者の個別状況による影響と考えられるが、制度自体の価値は十分に認められているといえる。

### 3.2.3. 学生アドバイザーのサポートがなかった参加者についての分析

すでに述べたように、学生アドバイザーが同席できなかったCさん・Gさん・Kさんのアンケート回答の多くは分析対象外となるが、タンデム学習の実施回数やコメントについては、一定の参考価値があると考えられる。

まず、Cさんについては、既に知り合いだった留学生と日仏タンデム学習を実施しており、さらに執筆者が担当する授業を履修していたこともあって、アドバイザーの不在にかかわらず円滑に学習を進められたと推測される。

一方、Gさんは6回の学習活動を実施できたものの、「タイマーで仕切ると改まってしまい、何を話していいか分からなくなった。次の回では自由に会話し、30分で交代するようにしたところ、その後は区切らずに行き、お互いが楽な英語で話し続けてしまった」とコメントしており、厳密な意味での日仏タンデム学習は継続できなかったようである。初回セッションにアドバイザーが同席していれば、改善の余地があったかもしれない。Gさん自身も「時間が合わず、アドバイザーと会えなかったのが残念でした」と述べている。

Kさんの場合、初回セッション1回で学習が終了しており、以降の継続には至らなかった。このケースでは、アドバイザーが初回にタンデム学習の進め方を詳しく説明し、ペアが会話を円滑に進められるような雰囲気を作っていれば、継続につながった可能性がある。

以上のようなアドバイザー不在の事例からも、初回セッションにおける学生アドバイザーの存在が、その後のタンデム学習の継続において重要な役割を果たす可能性が高いと判断できる。

## 4. まとめ

2024年度前期に実施された日仏タンデム学習の参加者および学生アドバイザーを対象としたアンケート調査の結果、学生アドバイザー制度はアドバイザー自身およびタンデム学習者双方にとって有意義であることが確認された。特に、初回セッション時に学生アドバイザーが同席していた学習ペアでは、同席がなかったペアに比べて学習活動がより円滑に進行する傾向が見られた。

本研究でのアンケート回答者は、学生アドバイザー2名およびタンデム学習者9名と規模が非常に限られているため、統計的分析の結果としては十分ではない可能性がある。しかしながら、日本の大学における第二外国語学習とタンデム学習を結びつけた取り組みと

して、本研究で示した手法が、他大学や他言語において同種の試みを行う際の参考資料となれば幸いである。

### 謝辞

本研究は、文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究（C）『日仏タンデムを中心とした国際共修と自律学習のための発展的プログラム開発』として、JSPS 科研費 JP23K00653 の助成を受けたものです。

### 参考文献

- 小林浩明（2016）「タンデム学習の意義と可能性」『北九州私立大学国際論集』第 14 号、pp.135-145.
- 廣田大地（2022）「オンライン日仏タンデム（語学交換）の制度設計について：神戸大学における実践例をもとに」『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』第 18 号、pp.37-46
- 廣田大地（2024）「日本の大学における日仏タンデム活動の意義と課題」『Journée Pédagogique de la langue française 2023』 pp.42-46
- 脇坂真彩子（2012）「対面式タンデム学習の互惠性が学習者オートノミーを高めるプロセス：日本語学習者と英語学習者のケース・スタディ」『阪大日本語研究』第 24 号、pp.75-101
- 脇坂真彩子（2013）「E タンデムにおいてドイツ人日本語学習者の動機を変化させた要因」『阪大日本語研究』第 25 号、pp.105-135
- Little, D., & Brammerts, H. (Eds.). (1996). *A Guide to language learning in tandem via the internet*. CLCS Occasional Paper, no. 46. Dublin, Ireland: Trinity College, Center for Language and Communication Studies.